おおみなみ

『つどう・つながる・つむぐ』



令和８年度
練馬区立大泉南小学校
校 長 皆 川 伸 一
令和８年 １０月３０日
TEL03-3922-1371

「それ、おもしろいねぇ」

大泉南小学校 校長 皆川 伸一

昔、こんな話を聞いたことがあります。小学校の低学年の頃までの子どもたちの頭の中は、本当に自由な発想で渦巻いている独特の世界――いわば「無限の宇宙」をもっているのだと。しかし、そこに画一的な大人の価値観や評価が持ち込まれてしまうと、その豊かな想像力の芽は少しずつ輝きを失ってしまうのだそうです。

私が小学4年生の図工の時間、校庭の風景を鉛筆で描いていた（当時はクロッキーと呼んでいました）時は「満足のいく絵が描けたぞ。」と思っていました。ところが、絵の具で色を付け始めた途端、思い通りにいかず台無しに……。通りかかった図工の先生からは、「色を塗る前はよかったのにねえ。」と言われてしまいました。

もともと手先が不器用だったこともあり、のりは紙からはみ出してしまうし、のこぎりで木を切ると途中で引っかかってしまうし、何より絵は本当にセンスがないなぁという思いを何度もしたため、苦手意識はどんどん強くなっていきました。

ところがその後、高校の教員になって、その絵心のなさが思わぬところで活きることになります。上手でない絵を黒板に描くことで教室に笑いが生まれ、場を和ませたり、授業にちょっとした潤いをもたらしたりできたのです。「自分の下手な絵でも役に立つんだな」「かえっていいネタになる」と、当時はむしろ喜んでいたのを覚えています。

その後、小学校へ移り特別支援学級を担当した際、図工の時間になると全く手を付けようとしない子どもたちに出会いました。たくさんの時間を費やして、子どもたちとやり取りをして分かったのは、彼らが「うまくできないから、周りのみんなと比べて恥ずかしい思いをする」という強い不安や恥の意識を抱え、固くブレーキをかけてしまっているということでした。

私たちは、上手・下手という結果の評価を遠ざけるよう、プロセスそのものに寄り添う声掛けを徹底しました。

「それ、おもしろいねぇ。」「この結び目、すごく頑丈にしたなぁ。」「これどうやって作ったの？教えてよ。」おとなのものさしで測るのではなく、子どもが広げようとしている世界を面白がり、そのままを承認していきます。ほんの少し背中を押すことで、固まっていた手が自ら動き出したあの温かな感動は、今でも胸に強く残っています。

いよいよ 11 月 7 日（土）、展覧会「広がれ！！創造の海～楽しさと夢の世界～」が始まります。会場には、「こうしてみたい！」「これが好きだ！」と子どもたちが自分の宇宙を広げ、夢中で創作に向き合った「瞬間の思い」があふれています。会場内の写真からも、その試行錯誤の息遣いを感じていただけることと思います。

展覧会の完成には、何よりも観覧してくださる皆様のお声が必要です。会場をご覧になりましたら、子どもたちの自由な発想に寄り添う温かい励ましや感想をお寄せください。

子どもたちといっしょに「創造の海」を、どうぞ皆様でお楽しみください。

11月は「ふれあい（いじめ防止強化）月間」です。

東京都では、毎年6月・11月・2月を「ふれあい（いじめ防止強化）月間」とし、子供たちが元気に学校に通学できるための様々な取組を行います。本校でも、アンケートの実施、各学級での話し合い活動等を行っていきます。

１１月の生活目標　元気よく運動しよう　言葉づかいに気をつけよう